

令和5年11月26日（日）施行

第212回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解答

第1問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	72,000,000	資本金	36,000,000
			資本準備金	36,000,000
	創立費	500,000	現金	500,000
2	前受手数料	180,000	受取手数料	180,000
3	現金	350,000	償却債権取立益	350,000
4	営業外受取手形	2,220,000	備品	4,000,000
	備品減価償却累計額	1,350,000		
	固定資産売却損	430,000		
5	繰越利益剰余金	6,240,000	未払配当金	5,100,000
			利益準備金	510,000
			新築積立金	630,000
6	外貨預金	56,000	為替差益	56,000
7	棚卸減耗費	1,700	繰越商品	1,700
	商品評価損	4,900	繰越商品	4,900

第2問

期末買掛金	期末純資産（資本）	売上総利益	当期純利益
¥ 1,084,000	¥ 1,736,000	¥ 459,000	¥ 176,000

第3問

【問1】

A商品の次月繰越高	
¥	63,612

【問2】

総勘定元帳

買掛金

8/23	784	8/ 1 前月繰越	335,941
		4	391,940
		21	163,000

仕入先（買掛金）元帳

富山商店

8/23	784	8/ 1 前月繰越	204,585
		21	163,000

得意先（売掛金）元帳

愛知商店

8/ 1 前月繰越	154,760	8/12	17,672
10	412,176		

仕入

8/ 4	391,940	8/23	784
21	163,000		

売上

8/12	17,672	8/10	412,176
		28	337,488

第4問

入金伝票			
科 目	金 額		
(売 上)	(200,000)		

出金伝票			
科 目	金 額		
(仕 入)	(3,000)		

入金伝票			
科 目	金 額		
(売 掛 金)	(60,000)		

出金伝票			
科 目	金 額		
(発 送 費)	(5,000)		

振替伝票(借方)			
科 目	金 額		
(仕 入)	(90,000)		

振替伝票(貸方)			
科 目	金 額		
(当 座 預 金)	(90,000)		

振替伝票(借方)			
科 目	金 額		
(仕 入)	(90,000)		

振替伝票(貸方)			
科 目	金 額		
(買 掛 金)	(90,000)		

振替伝票(借方)			
科 目	金 額		
(当 座 預 金)	(50,000)		

振替伝票(貸方)			
科 目	金 額		
(売 上)	(50,000)		

注 伝票の記入は順不同である。

仕 訳 集 計 表

令和5年9月5日

借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
260,000		現 金		8,000
50,000		当 座 預 金		90,000
		売 掛 金		60,000
		買 掛 金		90,000
		売 上		250,000
183,000		仕 入		
5,000		(発 送 費)		
498,000				498,000

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	124,000			16,000			108,000	
当 座 預 金	277,000						277,000	
受 取 手 形	196,000						196,000	
売 掛 金	289,000			80,000			209,000	
貸 倒 引 当 金		3,600		4,500				8,100
売買目的有価証券	168,000		5,000				173,000	
繰 越 商 品	141,000		152,000	141,000			152,000	
仮 払 法 人 税 等	8,000			8,000				
備 品	480,000						480,000	
備品減価償却累計額		120,000		60,000				180,000
買 掛 金		232,000						232,000
借 入 金		250,000						250,000
仮 受 金		120,000	120,000					
資 本 金		500,000						500,000
資 本 準 備 金		250,000						250,000
利 益 準 備 金		50,000						50,000
繰越利益剰余金		27,400						27,400
売 上		2,962,000				2,962,000		
受 取 手 数 料		30,000	6,000			24,000		
仕 入	1,986,000		141,000	152,000	1,975,000			
給 料	481,000				481,000			
保 険 料	160,000		20,000		180,000			
消 耗 品 費	16,000			2,000	14,000			
支 払 家 賃	204,000				204,000			
支 払 利 息	15,000		3,000		18,000			
	4,545,000	4,545,000						
(前 受 金)				40,000				40,000
雑 (益)				4,000		4,000		
貸倒引当金繰入			4,500		4,500			
減 価 償 却 費			60,000		60,000			
有価証券運用損益				5,000		5,000		
消 耗 品			2,000				2,000	
(前 受) 手 数 料				6,000				6,000
(未 払) 利 息				3,000				3,000
法 人 税 等			16,500		16,500			
(未 払) 法 人 税 等				8,500				8,500
当期純(利 益)					42,000			42,000
			530,000	530,000	2,995,000	2,995,000	1,597,000	1,597,000

令和5年11月26日（日）施行

第212回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解説

第1問

1. 会社設立に際し、株式を発行した場合には、資本金勘定を用いて処理をする。ただし、問題文中に、払込金額のうち2分の1は資本金として計上しないことにした。とあるため、払込金額のうち2分の1は、資本準備金勘定を用いて処理をする。

なお、会社設立のための諸費用は、創立費勘定を用いて処理をする。

資本金の金額 $30,000 \text{ 株} \times \text{¥}2,400 \times 1/2 = \text{¥}36,000,000$

資本準備金の金額 $30,000 \text{ 株} \times \text{¥}2,400 \times 1/2 = \text{¥}36,000,000$

2. 前期末に繰り延べた手数料の前受分の計上の仕訳

(借) 受取手数料	180,000	(貸) 前受手数料	180,000
-----------	---------	-----------	---------

再振替仕訳とは、前期末に行った仕訳の逆仕訳を行って適正な損益計算を行うこと

(借) 前受手数料	180,000	(貸) 受取手数料	180,000
-----------	---------	-----------	---------

3. 前期に貸倒れとして処理していた売掛金を現金で回収した場合には、回収した金額を償却債権取立益勘定を用いて処理をする。

4. 事務用のパソコン（備品）を売却した場合、売却価額と帳簿価額（取得原価－減価償却累計額）との差額は、固定資産売却益勘定又は固定資産売却損勘定を用いて処理をする。

代金について相手先振出しの約束手形で受け取った場合には、受取手形勘定ではなく、営業外受取手形勘定を用いて処理をする。

売却価額 $\text{¥}2,220,000$

帳簿価額 $\text{¥}4,000,000 - \text{¥}1,350,000 = \text{¥}2,650,000$

差 額 $\text{¥}2,650,000 - \text{¥}2,220,000 = \text{¥}430,000$ 固定資産売却損となる。

5. 株主総会において、繰越利益剰余金を配当および処分した場合には、繰越利益剰余金勘定を減少させ、配当金は未払配当金勘定、利益準備金は利益準備金勘定、新築積立金は新築積立金勘定を用いて処理をする。

6. 外貨預金について決算日の為替相場に換算した場合は、帳簿価額と決算日の為替相場で計算された価額の差額は、為替差益勘定または為替差損勘定を用いて処理をする。

帳簿価額 $\text{¥}3,640,000$

決算日の為替相場で計算された価額 $\$28,000 \times \text{¥}132 = \text{¥}3,696,000$

差額 $\text{¥}3,696,000 - \text{¥}3,640,000 = \text{¥}56,000$ 為替差益となる。

7. 棚卸減耗費及び商品評価損の金額を計算し、期末商品棚卸高（繰越商品勘定）より控除する。

棚卸減耗費については、棚卸減耗費勘定を用いて処理をし、商品評価損については、商品評価損勘定を用いて処理をする。

棚卸減耗費の金額：（帳簿棚卸数量－実地棚卸数量）×原価 で求める。

$(100 \text{ 個} - 98 \text{ 個}) \times \text{¥}850 = \text{¥}1,700$

商品評価損の金額：（原価－正味売却価額）×実地棚卸数量 で求める。

$(\text{¥}850 - \text{¥}800) \times 98 \text{ 個} = \text{¥}4,900$

第2問

(期首)

資産総額

現金・預金 ¥830,000 + 売掛金 ¥1,478,000 + 商品 ¥632,000 = ¥2,940,000

負債総額

買掛金 ¥1,440,000

純資産

資産総額 ¥2,940,000 - 負債総額 ¥1,440,000 = ¥1,500,000

(期末)

資産総額

現金・預金 ¥1,012,000 + 売掛金 ¥1,347,000 + 商品 ¥461,000 = ¥2,820,000

負債総額

買掛金 ¥ X

純資産

資産総額 ¥4,400,000 - 負債総額 ¥ X = ¥ ?

当期純利益

収益総額

純売上高 総売上高 ¥5,170,000 - 売上返品高 ¥580,000 = ¥4,590,000

純売上高を除く期間中の収益総額 ¥593,000

収益総額 純売上高 ¥4,590,000 + 純売上高を除く期間中の収益総額 ¥593,000 = ¥5,183,000

費用総額

純仕入高 総仕入高 ¥4,290,000 - 仕入返品高 ¥330,000 = ¥3,960,000

売上原価 期首商品 ¥632,000 + 純仕入高 ¥3,960,000 - 期末商品 ¥461,000 = ¥4,131,000

売上原価を除く期間中の費用総額 ¥876,000

費用総額 売上原価 ¥4,131,000 + 売上原価を除く期間中の費用総額 ¥876,000 = ¥5,007,000

当期純利益

収益総額 ¥5,183,000 - 費用総額 ¥5,007,000 = 当期純利益 ¥176,000

売上総利益

純売上高 ¥4,590,000 - 売上原価 ¥4,131,000 = 売上総利益 ¥459,000

期末純資産

期首純資産 ¥1,500,000 - 剰余金の現金配当額 ¥240,000 + 新株発行による払込額 ¥300,000

+ 当期純利益 ¥176,000 = 期末純資産 ¥1,736,000

期末買掛金

期末資産総額 ¥2,820,000 - 期末純資産 ¥1,736,000 + = 期末買掛金 ¥1,084,000

第3問

8月4日 仕入帳より

(借) 仕	入	391,940	(貸) 買掛金 (新潟)	391,940
-------	---	---------	--------------	---------

8月10日 売上帳より

(借) 売掛金 (愛知)	412,176	(貸) 売	上	412,176
--------------	---------	-------	---	---------

8月12日 売上帳より

(借) 売	上	17,672	(貸) 売掛金 (愛知)	17,672
-------	---	--------	--------------	--------

8月21日 仕入帳より

(借) 仕	入	163,000	(貸) 買掛金 (富山)	163,000
-------	---	---------	--------------	---------

8月23日 仕入帳より

(借)	買掛金 (富山)	784	(貸)	仕	入	784
-----	----------	-----	-----	---	---	-----

8月28日 売上帳より

(借)	現	金	337,488	(貸)	売	上	337,488
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

A商品の商品有高帳 (移動平均法) 商 品 有 高 帳

A 商 品

令和 5年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
8	1	前月繰越	62	1,628	100,936			62	1,628	100,936
	4	新潟商店	200	1,759	351,800			262	1,728	452,736
	10	愛知商店				174	1,728	88	1,728	152,064
	12	愛知商店	8	1,728	13,824			96	1,728	165,888
	21	富山商店	100	1,630	163,000			196	1,678	328,888
	23	富山商店					784	196	1,674	328,104
	28	静岡商店				158	1,674	38	1,674	63,612
	31	次月繰越				38	1,674	63,612		
			370		629,560	370		629,560		
9	1	前月繰越	38	1,674	63,612			38	1,674	63,612

第4問

取引を分解する方法で仕訳を行うと以下のとおりとなる。

9月5日

(借)	仕	入	90,000	(貸)	当座預金	90,000	→	振替伝票
(借)	仕	入	90,000	(貸)	買掛金	90,000	→	振替伝票
(借)	仕	入	3,000	(貸)	現金	3,000	→	出金伝票

9月5日

(借)	当座預金	50,000	(貸)	売上	50,000	→	振替伝票
(借)	現金	200,000	(貸)	売上	200,000	→	入金伝票
(借)	発送費	5,000	(貸)	現金	5,000	→	出金伝票

9月5日

(借)	現金	60,000	(貸)	売掛金	60,000	→	入金伝票
-----	----	--------	-----	-----	--------	---	------

第5問

付記事項

仮受金の処理

(借)	仮受金	120,000	(貸)	売掛金	80,000
				前受金	40,000

決算整理事項

1. 現金の処理

帳簿残高 ¥124,000

実際有高 ¥108,000

差 額 ¥124,000 - ¥108,000 = ¥16,000 (実際有高に合わせるため、現金を減少させる)

不一致の原因は、保険料 ¥20,000 の未記帳であるため保険料 ¥20,000 を記録する。

残額は、原因が判明しなかったため、雑益勘定または、雑損勘定を用いて処理をする。

(借)	保 険 料	20,000	(貸)	現 金	16,000
				雑 益	4,000

2. 売上原価の算定

(借)	仕 入	141,000	(貸)	繰 越 商 品	141,000
	繰 越 商 品	152,000		仕 入	152,000

3. 貸倒引当金の見積もり

受取手形の残高 ¥196,000

売掛金の残高 ¥289,000 - ¥80,000 (付記事項より) = ¥209,000

貸倒引当金の見積もりの金額

(¥196,000 + ¥209,000) × 2% = ¥8,100

貸倒引当金繰入額

¥8,100 - ¥3,600 = ¥4,500

(借)	貸倒引当金繰入	4,500	(貸)	貸 倒 引 当 金	4,500
-----	---------	-------	-----	-----------	-------

4. 備品の減価償却費の計上

¥480,000 ÷ 8年 = ¥60,000

(借)	減 価 償 却 費	60,000	(貸)	備品減価償却累計額	60,000
-----	-----------	--------	-----	-----------	--------

5. 売買目的有価証券の評価替え

帳簿価額 ¥168,000

評 価 額 ¥173,000

差 額 ¥173,000 - ¥168,000 = ¥5,000 (有価証券運用益となる)

(借)	売買目的有価証券	5,000	(貸)	有価証券運用損益	5,000
-----	----------	-------	-----	----------	-------

6. 消耗品の未使用高

(借)	消 耗 品	2,000	(貸)	消 耗 品 費	2,000
-----	-------	-------	-----	---------	-------

7. 手数料の前受高 (収益の繰り延べ)

(借)	受 取 手 数 料	6,000	(貸)	前 受 手 数 料	6,000
-----	-----------	-------	-----	-----------	-------

8. 利息の未払高 (費用の見越し)

(借)	支 払 利 息	3,000	(貸)	未 払 利 息	3,000
-----	---------	-------	-----	---------	-------

9. 未払法人税等

課税所得 ¥55,000 × 30% = ¥16,500

(借)	法 人 税 等	16,500	(貸)	仮払法人税等	8,000
				未払法人税等	8,500